

上手に活用!

特別支援教育巡回相談

巡回相談を上手に活用するためには、依頼した学校・園の工夫や取組が必要です。

巡回相談を活用した学校・園へのアンケート調査から、巡回相談を上手に活用している園・学校は、次のような工夫をしていることが分かりました。

巡回相談を学校・園の課題解決につなげるために、是非参考にしてください。



はっきりさせて – 主訴を明確にする

相談したいこと（主訴）をはっきりさせてこそ、よりの確な助言を得ることができます。

例えばこんな工夫を・・・（アンケートから）

- ・子供のどんな様子・行動を相談したいのか、できるだけ絞り込んではっきりさせておきました。
- ・座席表を用意したり、主訴になっている行動を相談員が直接見られるよう参観スケジュールを調整したりしました。
- ・本人や保護者は何に困っているのかについても可能な限り把握して、主訴を決めていきました。

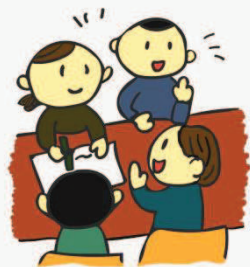


見つめて – きめ細やかな実態把握をする

効果的な支援方法を見つけるには、きめ細やかな実態把握による豊かな情報が必要です。

例えばこんな工夫を・・・（アンケートから）

- ・気になる行動が、いつ、どこで、どんな状況で、何回ぐらい起こっているか、継続的に記録を積み重ね、相談員に伝えました。「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」も用意しておきました。
- ・テストや作品といった本人の学習の様子がわかるものを残しておきました。
- ・これまで行ってきた支援を振り返り、効果のあった支援と効果のなかった支援とに整理しました。



みんなで – 相談したことを共有する

一人の頑張りのみに頼ることなく「みんなをみんなで見える」ことが支援の効果を高めます。

例えばこんな工夫を・・・（アンケートから）

- ・助言は、管理職はもちろん、関係する職員みんなで聞いて、統一した対応をとれるようにしました。支援員さんにも必ず伝えました。
- ・助言内容は、集会や園務会といった元々ある会議を使って、全職員で共有しました。
- ・助言内容は保護者に伝え、学校でも家庭でも同じ方法で支援できるようにしました。



やってみる – 相談したことを実践する

相談したことは、実践に結びついてこそ効果を発揮します。

例えばこんな工夫を・・・（アンケートから）

- ・助言された内容は、まずは期間を決めてやってみるようにしました。そして、その間の子供の様子を記録に残しておくようにして、効果を検証するようにしました。
- ・やってみてうまくいかなかった時には、少しアレンジしたり、再度巡回相談員に相談したりしました。
- ・助言内容を「個別の指導計画」や「個別的教育支援計画」に反映させるようにしました。